

青葉山に、音が咲く。

第14回青葉山コンサート

日時：2022年12月2日（金）

17:00 開場 17:30 開演

場所：青葉記念会館 1F ロビー

主催：青葉山コンサート実行委員会

後援：東北大学 工学研究科・工学部

情報科学研究科

第 14 回 青葉山コンサート

前回、第 13 回青葉山コンサートより、1 年ぶりの開催となりました。今回もまた学部学生から、教職員、名誉教授まで東北大学に関係するメンバーが、クラシックの名曲を中心にさまざまな曲を演奏いたします。ところで、音とは何でしょう？ 空気は窒素と酸素の分子があらゆる方向に縦横無尽に飛び回っている集合体で、その飛び回っている速さが、私たちが肌で感じる「温度」です(分子の動きが速いほど私たちは熱く感じる)。そのような空気の中にほんの少し、1 万分の1気圧ほどの濃いところが生まれると、「濃い=密」なので密を和らげるために周りに広がります。その広がり方は波のようで、やがて耳に届き、鼓膜を揺らし、そこで私たちは「音」として認識します。たったこれだけの物理現象ですが、楽器によって千差万別、演奏者によって十人十色、それらが紡ぎ合うことで奏でられる音楽とはまさに無限の組み合わせの中から今この瞬間にだけ顕現した「音の流れ」です。白い季節の始まりに、澄んだ空気に響く音の流れを皆さまと一緒に楽しめたらと思います。

実行委員 茂田正哉

開会のあいさつ 工学研究科長 湯上浩雄

プログラム

●モーツァルト

ピアノとヴァイオリンのためのソナタ ト長調 Kv 301 第 1 楽章 アレグロ・コン・スピリト

佐々木大地(Vn 生命科学研究所 博士課程後期 2 年)、

井樋慶一(Pf 生命科学研究所 客員研究員、東北大学 名誉教授)

1778 年に作曲されたト長調ソナタは明るく美しい作品である。本日演奏する第 1 楽章アレグロ・コン・スピリト(生き生きと速く)はソナタ形式で書かれている。ヴァイオリンとピアノが対等に扱われており、両者が呼応して絶妙のアンサンブルが生み出される。

●ドビュッシー

ベルガマスク組曲より、月の光

稲葉 剛(Pf 工学部 機械知能・航空工学科 4 年)

ほとんどが pp で演奏される繊細な曲で、ほんやりとした響きが特徴的です。農学部図書館の閉館時に流れていて、ピアノに触れたことがなかったのですが自分の手で弾いてみたいと思い練習しました。

●Mike Wilsh オー・シャンゼリゼ

●エルガー 愛の挨拶

●Raffaele Calace マズルカ 第 6 番

田原靖彦(Mand 東北大学 OB(工学研究科 建築学専攻 修了)), 阿部玲子(Pf ゲスト)

マンドリンの幅広い可能性をご紹介する意味で、お馴染みのシャンソンとクラシック、そしてマンドリン・オリジナル・ソロ曲を演奏します。Raffaele Calace(イタリア)は、作曲と演奏にたけたマンドリン界のレジェンドで、「マズルカ第 6 番」は 1924 年に来日した折、その帰路の船内で作曲されたものです。

●リスト

愛の夢 第 3 番

富田謙衡(Pf 情報科学研究科 情報基礎科学専攻 博士課程前期 1 年)

「愛の夢」は F. Liszt が作曲した 3 曲からなる曲で、歌曲として作曲したものを自身がピアノ曲に編曲したものです。第 3 番「おお、愛しうる限り愛せ」、皆様に愛をお届けします。愛を知らない大学院生に表現できるのか、乞うご期待！

●J. S. バッハ

Viola da gamba Sonata No.3 BWV1029 より第1 楽章 Vivace

DUO 動物園(村田 智(Vc 工学研究科 機械系 教授), 今野喜久代(Pf ゲスト))

バッハが viola da gamba とハープシコードのために書いたト短調のソナタをチェロとピアノで演奏します。チェロとピアノの右手、左手がそれぞれ異なる旋律を奏でるいわゆるポリフォニーの音楽です。

休憩(換気)

●葉加瀬太郎

情熱大陸

Masaki & Masaya(茂田正哉(Dr 工学研究科 機械系 教授), 松浦雅樹(Vn ゲスト))

多くの人を魅了しカバーされている「情熱大陸」をヴァイオリン 1 人とドラム 1 人のみでアコースティック風に表現することに挑戦します。

●Les Frères

Boogie Back to YOKOSUKA

濱邊一希(Pf 理学部 物理学科 3 年), 南 和馬(Pf 理学部 物理学科 3 年)

ピアノ連弾で界限では有名なレ・フレールさんの一曲です。とても元気な曲なので青葉記念会館の静かな雰囲気合うか不安な部分はありますが、楽しんで演奏します。

●Irving Graham

You Better Go Now

佐藤達也(Pf 東北福祉大学 教員(情報科学研究科 元教員))

1936 年、ある舞台レビューのために、作詞・作曲された。作詞者は Bickley Reichner, 作曲者は Irving Graham という人である。"You better go now, because I like you much, too much..." という歌詞ではじまるバラードで、メロディーが美しくロマンティックな曲である。ジャズスタンダード曲としてはあまり有名ではないが、Jeri Southern, Billie Holiday, Chet Baker 等による録音がある。

●L. Anderson

そりすべり

雨宮功来(Pf 理学部 物理学科 3 年), 神澤帝鳳(Pf 理学部 物理学科 3 年)

今ではクリスマスを代表する一曲となっていますが、もともとはクリスマス用に作られたわけではありません。そりを引く馬のいななきや、ひずめの音、馬を叩くムチや鈴の音などの冬の情景を音楽にしたようです。これらの情景を思い浮かべながら是非お聴きください。

●坂本龍一

戦場のメリークリスマス

Immusician(内野紗江佳(Pf 農学研究科 博士課程後期2年), 浦川めぐみ(Vn 農学研究科 元職員),

山内清哉(Bell 農学研究科 博士課程後期2年), 周 冰卉(Bell 農学研究科 職員))

12 月にぴったりの、切なくも美しい旋律を響かせます。免疫学(Immunology)の研究に勤しむ、愉快な博士と博士の卵たちによる演奏をお楽しみください。

休憩(換気)

●J. K. Mertz

ロマンス

かわいい変奏曲(吟遊詩人の調べ Op.13 から)

川又政征(Gt 東北職業能力開発大学校, 東北大学 名誉教授)

ヨハン・カスバル・メルツ(1806-1856)はスロヴァキア生まれのロマン派のギタリスト・作曲家である。メルツの曲はいずれもギターという楽器の特性を生かし、東欧のロマン派的な抒情にあふれた旋律に特徴がある。

●シヨパン

ワルツ 第 14 番 ホ短調 (遺作)

佐藤みどり(Pf 情報科学研究科 職員)

シヨパンの没後に遺作として出版され、彼の主要なワルツ 14 曲の中では唯一作品番号が振られていない作品です。華やかさの中にどこか叙情的な雰囲気漂います。長いことピアノから離れていましたが、昨年より少しずつ練習を重ねてきました。シヨパンの美しい音楽を感じていただければ幸いです。

●ブラームス

6つの小品 作品 118 第 2 番 間奏曲 イ長調

笠島康生(Pf 理学部 地圏環境科学科 3年)

この作品は、ブラームスの晩年の作品のひとつです。官能的で妖艶な雰囲気を持ちながらも、内省的で哀愁に満ちており、晩年のブラームスが過去の自分に訴えかけ、心の奥底に眠る葛藤や懊悩をも呼び起こすような作品です。

●モーツァルト

Eine Kleine Nachtmusik K.525 より第 1, 4 楽章

松浦雅樹と保護者達(松浦雅樹(1st Vn ゲスト), 夏井修子(2nd Vn 工学研究科 機械系 職員 OG),

松浦順子(Va 工学研究科 機械系 職員), 村田 智(Vc 工学研究科 機械系 教授))

バイオリニストの松浦雅樹さんをお招きして、定番中の定番、アイネ・クライネ・ナハトムジークをお送りします。軽快で爽やかな音楽をお楽しみください。

青葉山コンサート実行委員会

工学研究科 教授 村田 智・中田俊彦・茂田正哉・高奈秀匡

准教授 中村 肇, 助教 鴫田 駿・杉本 真

理学研究科 技術専門職員 中山貴史

工学部・工学研究科同窓生 桑野博喜・川又政征・田原靖彦

お問い合わせ: aobayama-contact@googlegroups.com

青葉山コンサートホームページ

<https://web.tohoku.ac.jp/eng/mirai/aobayama/>

青葉記念会館のグランドピアノは、震災後5年を経た 2016年3月、

心の復興のために機械系同窓会が寄贈したものです。

(使用可能時間: 平日 9:30-19:30)

協力: 工学部事務部 教務課学生支援係, 施設管理室

プログラム・ポスターデザイン 小林雅幸

ロゴデザイン 笹川瑛貴